

厚労省
「人材開発支援助成金」
対象講座!

第30回 BPR (業務再構築) 責任者養成塾

～世界の潮流「学び直し」で「超生産性」を獲得する～

モノづくり企業の「BPR担当及び幹部社員向け」管理技術の育成塾

ICTの利活用で「在庫20%・人件費8%・材料費1%」削減。利益率5割UPを実現する方策を学ぶ!

受講対象者 (モノづくり企業の社長後継者・幹部社員、BPR構築責任者、生産管理責任者)

- ・超生産性UPを目指す幹部社員・BPR責任者の育成。
- ・「2025年の崖」「DX」への対応を考えるモノづくり企業のRPR構築責任者。
- ・ICTが活用されているが、在庫過剰、欠品発生等の改善が進んでおらず、改革のためのBPR構築責任者。
- ・正しい仕組みづくりが分からず、トップ後継者・幹部社員の育成が必要な企業のトップ後継者候補・幹部社員。

管理技術による利益 一売上比2%の新たな利益(“経常利益率の5割増”)

【効果のモデル】

(例)年間売上高 100億円程度の企業

| | 内 容 | 計算式 | 予想利益 | 経験値 |
|---|---------------|-----------------|-----------------|-------|
| 1 | 材料費の削減 | 50億円×1% | 5,000万円 | 8～15% |
| 2 | 在庫金額の削減 | 7億円×20% ×20% | 2,800万円 | |
| 3 | 間接要員の能率向上(製造) | 2億円×20% | 4,000万円 | |
| 4 | 間接要員の能率向上(事務) | 3億円×10% | 3,000万円 | |
| 5 | 直接人員の生産性向上 | 10億円×5% | 5,000万円 | |
| | | | 19,800万円 | |

注1) 上記は1年間のメリットで、この利益は継続的に実現する。(定着化が続く限り)

注2) 上記は金額換算出来る項目で、受注納期短縮、多種少量生産の実現、納期回答の迅速化、見積書の迅速化、製造期間の短縮、クレームの減少等々の金額換算出来ない経営効果もある。注3) ビジネスモデルの高度化・人材育成効果が大きい!!

日時・開催方法

日 時 : 2021年 10月18日-2022年 1月24日 毎週月曜日 全12回13:00~17:00 (別添のカリキュラムを御参照下さい。)

方 法 : TV会議方式オンラインセミナー(定員5社限定)・・・マンツーマンの塾運営を目指しています。(卒業生300名以上)

受講料 : 15万円/人(「厚生労働省人材開発支援助成金」の対象講座。(後述参照))

申込締切日 : 2021年 9月17日(金曜日)助成金申請のため締切日遵守ください(申請手続きは、お手伝いします)

本講座の開講目的

弊社は「(モノづくり企業)の競争力強化」を社是としております。

我国の1人当たりGDPは世界で26位と著しく競争力が低下しています。

要因は「管理技術の知識不足」と「開発方式の間違い」及び「人材育成の不足」です。

本講座は、これに正しい「解」をご提供いたします。

塾長 八木 弘泰

[本講座の特徴] **一標準化の実務演習が大人気一**

「実際原価」は
ウソの原価です！



では、「真の原価」
は、どのようにして
求めるのですか？

リアルタイムで質問も出来る
“双方向型”の「塾」です。
移動時間も不要！

- ※口頭でのご質問、質問カードによる講義割込み (zoomミーティングを使用)
- ※御社の課題解決の為、個別相談の実施
- ※受講前には、事前接続テストの実施

実習で実感してみませんか？

「管理技術」を使えば、自社の基準・標準化は、容易に実現できる！

作業標準の設定

工程管理の基本である作業標準・標準時間の設定を作業分析ソフトを使用して特定品目の設定を演習します。

ロケーションの設定

保管管理が不備では在庫管理は出来ない。御社の倉庫を対象にロケーションを演習で設定します。

原価チャージの設定

「時間当たり単価」の設定が出来てない企業が多くなっています。御社のチャージ(賃率)設定の演習をします。

部品表(BOM)の設定

部品表は、生産管理の要！でも作成方法が分からない、難しいと考えている方に御社の製品を基に演習をします。

「受講者の声」

大手機械メーカー(東京)取締役工場長

40年前から生産管理のICT化を推進したが「効果」が実感できず、10年前にERPに合わせた業務プロセスが正しいとコンサルタントの指導を受けERPを導入しました。

結果は混乱が続きカスタマイズを繰り返し現在に至っています。

部下と共に今回の「塾」に参加し、正に「目から鱗」で、抜本的な考え方の間違いと、これからの対処を明確に知ることが出来ました。講師の方々の熱意に感謝します。

中堅食品製造業(大阪) 代表取締役社長

50年以上の歴史を持ち、利益率も業界平均より高く、工場運営には、大きな不安はありませんでした。今回の管理技術の知識は受け大きな衝撃でした。各種の基準・標準化の根本的な間違いに気づき、特に作業標準の間違いは、大問題で全ての幹部社員に受講をさせるよう推進します。

中堅機械加工メーカー(名古屋)生産管理部長

「標準時間」の設定、「作業指導」の実施。我々の「常識」が全く間違っており、先生方が指摘される「間違ったことを一生懸命」実施している現状に、目覚めました。

「基準・標準の無いところに管理は無い」当たり前前の事ですが、実現の方策が明確になりました。直ぐに取り掛かります。

事前サポートサービス(必要時)

1. 必要機材の無償貸出
2. 事前接続テスト の実施

ご用意頂く物：

1. パソコン、インターネット環境 (御社で御準備願います)
2. マイク内蔵型のWEBカメラ (無償貸与致します)
3. スピーカー又はイヤホン (無償貸与致します)

推奨要件：
・クアッドコアプロセッサ Windows8以降のOS
・3.2mbps/4.0mbps (上り/下り) の
高速ブロードバンド環境



株式
会社

管理技術ラボ

1. 教育訓練の目標レベル

| | |
|-----------------|---|
| <p>具体的な到達目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・現在の生産システムに携わっている技術者（SE等）は間違っ知識のもとに開発が行われているケースが多く、結果的に当初計画したシステムが構築されることは少なく、効果も効率も目標を達成できていないケースが多い。これはシステムの設計・開発者が生産システムの基礎的知識やスキルはもとより、必須技術である「管理技術」を習得できていないことが、その主たる要因と考えられる。この管理技術を習得することで正確で、効率的な生産システムを設計、開発する能力を習得し、既存システムの再構築という業務も担えることを目標にする。（管理技術をベースにした、分析・設計・定着化・効果測定技術の取得も含む） |
| <p>習得できるスキル</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・生産システムは元来、工学的な理論に導かれて稼働するものである。その基本となる管理工学、生産管理、原価管理、品質管理などの理論と現場で長年培われたノウハウを形式知化したTEXTを軸に、即、役に立つ管理技術を習得できる研修となっている。 さらに、「基準化」「標準化」が、ICT化の前提であるが、これが準備されていない事が、生産システムの失敗の大半になっている。 これら「基準・標準化」例えば、リードタイム、標準時間等々の設定方法及びBOM等のデータ構築の設定方法も取得できる。 生産システムに必要なICT機能も、習得でき、企業の特性に合致したRFPが作成できる。 |

2. 教育効果の把握方法（修了評価）

| | |
|---------------------------------------|--|
| <p>到達目標に対する技術・知識の到達度の把握・測定方法</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の「事例演習課題」の発表内容の評価 2. 毎回の「理解度テスト」の提出を求め、その「評価」、満点になるまで、再提出を義務としている。 3. 出席確認は、開始・終了時に「写真撮影」 4. 講義中は、「モニタリング担当」「事務局」が、受講者の「表情をモニタリング」し、理解度を推定し、講師に連絡。講師は、該当者に質問等の声掛け。「声掛け」記録での受講態度測定。受講者に注意勧告。（過去に該当者なし） 5. 5分間以上の「離席」は、再受講をして頂く。「モニタリング係」からの指摘。（過去に該当者なし） |
| <p>修了認定基準に満たない受講者への措置</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席率100%（欠席時は、再受講を求めています。再受講は無償です）。欠席があれば、修了証書の発行はしない。 2. 「理解度テスト」が満点であること。（再提出回数の制限はなく、受講期間を過ぎても満点になれば、修了証は発行する。 3. 毎回の「事例演習課題」の発表が、80点以上の評価であること。 |
| <p>修了認定の判断基準（出席率、修了テスト等の具体的な判定基準）</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 前述のように、受講期間を過ぎても、「理解度テスト」は、満点になるまで、再提出を求める。 2. 補講制度があり、無制限に補講は、申し込むことが出来る。（定期補講と随時補講がある）修了認定基準まで、補講を継続し、修了して頂いている。 3. 補講制度 定期補講：講習日の前後2時間は、講師が待機し補講希望者に備えている。 随時補講：受講者の希望時間（主に就業時間外）に、できる限り沿うよう、実施している。補講はすべて無償としている。 |

3. 受講の利便性

| | |
|----------------------------------|--|
| <p>社会人に対する受講のしやすさ（利便性）を高める工夫</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・すべての講義はオンライン・ライブ研修で行われる。 コロナ以前からこの方式を採用し、MAX20人以内の受講生に対し、あたかも1対1かのような講義と、受講者同士の対話や演習を交え、知識とスキルの習得を図っている。（zoomを使用） ①受講者は会社や自宅から受講することができる。②社会人の受講をしやすくするため、1週間に1度、午後の半日（4時間）を受講時間とし、14週間が一つの学習チームとなる。 ③講義の録画をオンデマンドで見ることができる。これは復習にも使用できる。 ④前述の「補講制度」の利用が非常に多い。（受講できない場合は、受講者の時間の都合がつく日時で、補講で必ず受講頂く。） |
| <p>受講者に対するサポート体制</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・①質疑は、メールまたは前述「補講制度」が活用されている。 ②「事務局」が、12時間以内に受講生からの、質疑に回答している。 ③「理解度テスト」「演習課題」の成績の悪い方には、「事務局」から、受講者に「補講」に申し込むようガイドしている。 ④受講中は、「モニタリング係」が、常に受講者の「表情」をモニタリングし、表情の曇った方、睡魔に襲われている方には、講師に連絡が入り、講師から該当受講者に声かけをしている。 ⑤受講者は、チャットでも質問でも質問できるが、「質問カード」をカメラに掲げる事で、講義を止め質問が出来る。また、講師から、講義内容の理解度を受講者に講義中にもとめ、受講者は「理解度カード」を提示することになっている。「理解度カード」は、5点法で3点以下の方が一人でもいれば、再度同じ講義を行うルールになっている。 |



お申込みはこちら

<https://kan-lab.sakura.ne.jp/postmail/askjyuku.html>

または、メール「asguide@kan-lab.com」宛に申込可能です

また、FAXでお申込みの場合は、必要事項をご記入の上、「0798-55-8779」へFAX送信ください。
なお、誠に勝手ながら満席になり次第、申込を締め切らせていただきますので、ぜひお早めにお申し込みください。
申込締切日：9月17日(金)

| | | | |
|----------|-------------------------------|-------------------------------------|--|
| 参加ご希望記入欄 | <input type="checkbox"/> 受講する | <input type="checkbox"/> 詳しい説明を聞きたい | |
|----------|-------------------------------|-------------------------------------|--|

| | | | |
|------------|------|-----|--|
| 貴社名(必須) | ふりがな | | |
| ご住所(必須) | | | |
| TEL(必須) | | FAX | |
| 部署・役職名 | | | |
| ご芳名(必須) | ふりがな | | |
| E-Mail(必須) | | | |
| 部署・役職名 | | | |
| ご芳名(必須) | ふりがな | | |
| E-Mail(必須) | | | |
| 部署・役職名 | | | |
| ご芳名(必須) | ふりがな | | |
| E-Mail(必須) | | | |

【お客様の個人情報の利用目的】

お客様がご記入頂きました個人情報は、本セミナー資料・受講票の送付および、弊社セミナーのご案内送付以外に使用いたしません。

また、第三者にこれを開示することはありません。

お客様が記載された情報は、(株)管理技術ラボの個人情報保護ポリシー(<http://www.kan-lab.com/policy.html>)に基づき、適切に管理いたします。

同意する

塾長

八木 弘泰

中小企業診断士
特種一種情報処理技術者



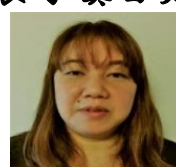
講師

吉川 正一



講師

長町 真由美



講師

八木 達也



50年間、6百社に及ぶ企業の業務再構築指導に従事し、又、企業診断業務は2千社を超える実績を持つ。IT技術+「管理技術」で年商比2%の「新たな利益」の実現を目的に業務再構築指導で活動している。1970年代に「死語」化した「管理技術の復興・普及」をライフワークとし各地でのセミナーは年間30回以上に及ぶ。

40年間、コンサル・SE経験を持ち、製造業を中心に数百社の業務再構築に従事、複雑系の仕組を「科学化」する才能の持ち主。「管理技術で利益の獲得」を担うASGUIDEツール開発の責任者(経産省システムアナリスト)

業務再構築指導は20年間に及び、指導実績も加工業から再生医療企業までの広範囲。職務分析技法の特許を取得(ITTVC認定 ファシリテータ)

作業改善をベースとした標準時間の設定、在庫動態分析からのロケーション設定等々の「標準化・標準化」を専門とする管理技術コンサル

CHECK 厚生労働省 人材開発支援助成金について

当該講座は「助成金」対象講座で、受講前の申請により助成があります。

* 大企業も対象になりました。

参考HP: [厚生労働省「人材開発支援助成金」](#)



クリック

不明点はお気軽にお問い合わせください。



セミナーに関するお問い合わせ先

「塾」の運用企業



株式会社

管理技術ラボ

Art & Science

TEL: 0798-77-2667 FAX: 0798-55-8779

URL: <http://www.kan-lab.com> e-mail: asguide@kan-lab.com

[BPR（業務再構築）責任者養成塾]カリキュラム

| 回数 | 日程 | 教育名 | 教育内容 |
|----|---------------------------------|---------------------------|--|
| | | | 1. 内容 |
| 1 | 10/18(月) 14:00 ～17:00 | キックオフ 管理技術による利益の獲得 | ①管理技術とは ②管理技術による利益の獲得 ③ERP導入の失敗要因 2. 到達目標 ①管理技術の有用性を理解する ②ICTと業務知識だけではBPR構築は無理な事を知る。 |
| 2 | 10/25(月) 13:00 ～17:00 | 業務毎の管理技術 (生産計画、資材計画) | 1. 内容 ①業務毎の「業務知識」 ②業務ごとの目的・課題 ③管理方式の説明（計画立案・検証方式） ④業務フロー（生産計画－製造・購買計画） 2. 到達目標 生産計画と製造計画の分離を理解し、「生産計画は経営の意思」の設計を習得。 生産計画・資材計画の立案・検証方式を学習ライブラリで演習し習得する。 |
| 3 | 11/01(月) 13:00 ～17:00 | 業務毎の管理技術（購買管理） | 1. 内容 ①業務毎の「業務知識」 ②業務ごとの目的・課題 ③管理方式の説明 (納入指示、欠品過剰予測・納期管理・リードタイム設定法) ④業務フロー（購買計画－発注－納期管理） 2. 到達目標 手配の自動化の構築方法を事例演習を通じて習得する。 リードタイム等の手配自動化に必要な基準値の設定を習得する。 |
| 4 | 11/08(月) 13:00 ～17:00 | 業務毎の管理技術（工程管理） | 1. 内容 ①業務毎の「業務知識」 ②業務ごとの目的・課題 ③管理方式の説明（作業指導、作業指示 作業標準・標準時間設定） ④業務フロー（製造計画－作業指図－実績） 2. 到達目標 事例演習を通じて、工程管理が「作業指導」であることを習得する。 前項目的のため「標準時間」の設定方法を実習で習得する。 |
| 5 | 11/15(月) 13:00 ～17:00 | 業務毎の管理技術（在庫管理） | 1. 内容 ①業務毎の「業務知識」 ②業務ごとの目的・課題 ③管理方式の説明（循環棚卸、出庫方式） ④業務フロー（出庫指図、循環棚卸） 2. 到達目標 在庫管理の目的は、在庫低減ではなく在庫精度の維持を習得する。 前項目的のため、事例演習で在庫精度維持の方式を習得する。 |

[BPR (業務再構築) 責任者養成塾]カリキュラム

| 回数 | 日程 | 教育名 | 教育内容 |
|----|---------------------------------|------------------------------|---|
| 6 | 11/22(月) 13:00 ～17:00 | 業務毎の管理技術 (部品表管理) | 1. 内容 ①業務毎の「業務知識」 ②業務ごとの目的・課題 ③管理方式の説明 (部品表の精度維持等) ④業務フロー (新規、設計変更、新旧切替) 2. 到達目標 部品表の100%精度維持を事例演習を通じて習得する。 部品表の構築を学習ライブラリで習得する。 |
| 7 | 11/29(月) 13:00 ～17:00 | 業務毎の管理技術 (受注出荷管理) | 1. 内容 ①業務毎の「業務知識」 ②業務ごとの目的・課題 ③管理方式の説明 (製造依頼と出荷指図) ④業務フロー (受注、出荷指図、生産計画) 2. 到達目標 受注情報が出荷指図、製造依頼の源泉であることを学習ライブラリで習得する 受注情報の精度維持の重要性と維持方法を事例演習で習得する。 |
| 8 | 12/06(月) 13:00 ～17:00 | 業務毎の管理技術 (品質管理) | 1. 内容 ①業務毎の「業務知識」 ②業務ごとの目的・課題 ③管理方式の説明 (検査方式・ライン化) ④業務フロー (検査指示・合否判定、遡及) 2. 到達目標 検査業務がライン業務であり、日程化の重要性を事例演習で学ぶ。 購買・工程・出荷業務と品質管理の連携を学習ライブラリで学ぶ。 |
| 9 | 12/13(月) 13:00 ～17:00 | 業務毎の管理技術 (原価管理) | 1. 内容 ①業務毎の「業務知識」 ②業務ごとの目的・課題 ③管理方式の説明 (コスト低減と財務会計) ④業務フロー (原価計算と原価差異分析) 2. 到達目標 財務会計と原価管理、原価管理の課題を事例演習で習得する。 賃率 (チャージ計算)、配賦の仕組みを学習ライブラリで、習得する。 |
| 10 | 12/20(月) 14:00 ～17:00 | 生産管理のICT事例 (学習ライブラリで疑似体験) | 1. 内容 生産管理のICT機能とマン・マシンフローを学習ライブラリを使用して実機で演習 2. 到達目標 ICTと人の役割を疑似体験し、ICTによる生産管理システムの具体的なイメージを持つ。 |

[BPR (業務再構築) 責任者養成塾]カリキュラム

| 回数 | 日程 | 教育名 | 教育内容 |
|----|---------------------------------|--------------------------------|--|
| 11 | 01/17(月) 14:00 ～17:00 | 分析・設計・定着化・効果測定技術の本当の技術を学ぶ (概要) | 1. 内容 BPR構築の分析・設計・定着化・効果測定技術の概要を学ぶ 2. 到達目標 ①現状分析ー基本設計ーRFP作成ー詳細設計ーデータ構築及び定着化技法の概要習得 ②現状分析の内、「個人別職務分析」を、分析ツールを使用して、受講者自身の分析を行い、有用性を実感する。 |
| 12 | 01/24(月) 14:00 ～17:00 | 管理技術 原理原則編のまとめ | 1. 内容 ①成果発表 受講者ごとの、成果発表の実施 ②管理技術の「共通原則」講義 2. 到達目標 自社のBPR構築への管理技術の有用性をどのように社内に広めるか、BPR構築の開発計画を立案できる。 |